『大阪市街全図（新町名入）』

明治 33 年　大阪市役所（編集兼発行者）　水口龍之助（印刷者）　113 ㎝×148 ㎝
関西大学図書館蔵

「凡例」に、「一着色　旧市ハ区毎ニ、新市ハ新ニ町界ヲ設定シタルヲ以テ、見易カラシメンガ為メ町毎ニ之ヲ分別ス」と説明がある。黄、赤、緑の三色で町が塗り分けられる。

明治 34 年の『大阪市全地図』と比べると、わずか 1 年の差であるが、いろいろな違いがあり、市内の発展の様子を見ることができる。『大阪市全地図』は高津六番町の「松湯」を利用する客の便宜を図るために、観光案内的な要素を取り入れているが、この『新町名入大阪市街全図』は町名をもれなく記載することにあるので、観光案内的な要素はなく、停車場や主要施設の説明しかない。現 JR 難波駅は「港町停車場（「湊」ではない)、南海は「難波停車場」で、現汐見橋駅はまだない。この地図は 7 月発行で、高野線が堺市から延長され、「道頓堀停車場」が開業するのは 9 月である（翌年 1 月から「汐見橋駅」となる)。

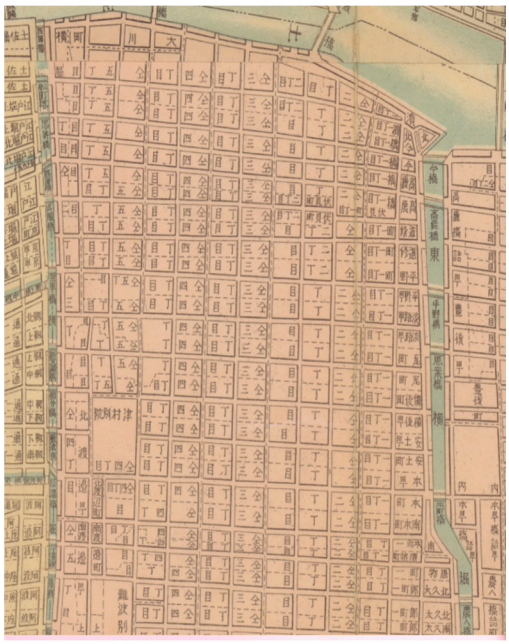
現在の扇町公園には、この時代は通称「堀川監獄」の「大阪刑務所」があった。この地図には名称はないが、刑務所内の建物の配置が詳しく描かれている。残念ながら、実際の配置同じであるかは、まだ確認できていない。ちなみに、この監獄には、宮武外骨が何度もお世話になっている。

明治 34 年の『大阪市全図』では「改修淀川口」と記載されている工事地域が、この地図では「淀川改修線」として、陸地の上に赤色二重線で路線が示されている。この路線を見れば、稗島村、鷺洲村、傳法村の水没した地域がはっきりとする。また、「卍」で寺院の位置が示され、天王寺周辺と上本町近辺に集中していることもわかる。寺院についてもう一点、明治 34 年の『大阪市全図』では「北御堂」と「南御堂」となっているが、この地図では「津村別院」と「難波別院」となっている。

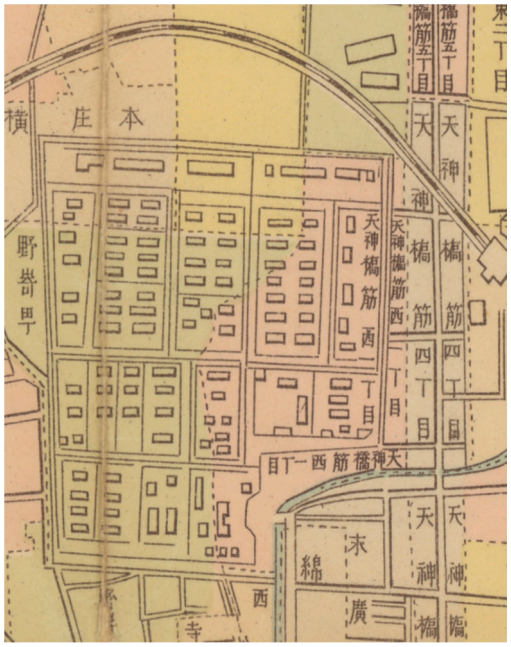
さらに、『大阪市全図』を配布した松湯の位置した「高津六番町」の位置がはっきりとする。今後、現在の地図で場所を確定したい。明治 33 年に南区木津が、木津敷津町、木津大国町、木津鴎町など 6 町に再編成される。この木津鴎町に、折口信夫の生家があった。当時折口は府立第五中学校、のちの天王寺中学に在学中だ。

もう一点、天下茶屋東側に区画があり、ほぼ中央に池がある。「聖天山遊園」の区域ではないかと思われる。明治 28 年頃に開園している。この時はまだ、宮武外骨の邸宅はここになく、この明治 33 年 4 月から天王寺伶人町で生活を始めている。

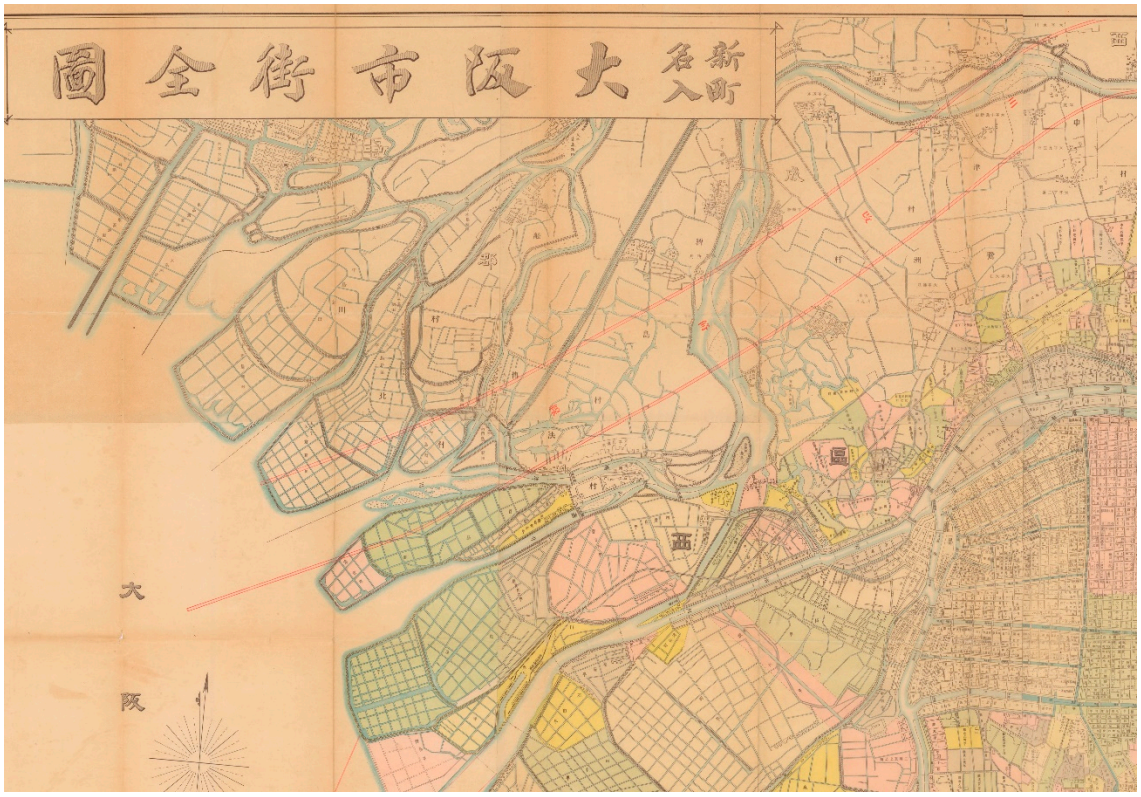
町名が詳しいだけに、当時の大阪文化人の居住地を見つけ出すのに役に立つ貴重な史料である。



・詳しい町名の記載



・大阪監獄（堀川監獄）の様子



・中央の赤い線の内側が「改修淀川口」